

令和6年度
第1回一関市博物館協議会
次 第

日時 令和7年2月13日(木)
午後2時から午後4時まで
会場 一関市博物館 研修室

- 1 開会のことば
- 2 挨拶
- 3 協議
 - (1) 令和6年度事業の取り組み状況について
 - (2) 令和7年度事業計画について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会のことば

令和 6 年度

事業の取り組み状況

目 次

I	展示活動	
1	常設展示	1
2	特別展	1
3	企画展	3
II	教育普及（交流連携）活動	
1	講座	7
2	体験学習	9
3	その他の教育普及（交流連携）活動	11
III	資料収集・保存・貸与・管理等	12
IV	調査研究活動	13
V	大槻家資料保存活用事業	15
VI	広報活動	15
VII	その他	15
VIII	講師派遣等状況	16

令和6年度事業の取り組み状況

I 展示活動

1 常設展示

常設展示室

【目的】

- (1) 地域の歴史と文化を多様な資料により系統的に展示し、広く生涯学習の推進・充実に寄与する。

【内容】

- (1) 「一関のあゆみ」「舞草刀と刀剣」「玄沢と蘭学」「文彦と言海」「一関と和算」の5テーマおよび昔の道具の展示。研究成果に基づき、随時展示替えを行う。
- (2) 長沼守敬に関する展示
明治時代から大正時代にかけて活躍した一関出身の彫刻家 長沼守敬を顕彰するための展示。エントランスホールにパネルを展示（通年）。

2 特別展

特別展 「江戸の大名屋敷—一関藩・仙台藩—」

【趣旨】

江戸時代、各大名は、参勤交代により江戸での生活が命じられ、そのために幕府から江戸に屋敷を拝領しました。上屋敷・中屋敷・下屋敷などと区別された大名屋敷は、各藩の江戸での活動の拠点となりました。また、その動向は国元の領民にも影響を及ぼしました。

仙台藩の屋敷跡は、汐留遺跡として注目され、大規模な発掘によりその構造が明らかになっています。また、その近くの愛宕下にある一関藩の上屋敷跡からも注目される遺物や遺構が発見されています。

発掘の成果や歴史資料を通して、一関藩・仙台藩の江戸屋敷の構造や機能、暮らしや事件、藩主の大名としての側面や領民との関わりを紹介します。

【開催期間】 令和6年9月14日（土）～11月24日（日）

【開催日数】 62日間

【入館者数】 5,576人（89.9人／日）

【展示概要】

展示構成

- I 幕府と大名
- II 仙台藩の江戸屋敷
- III 一関藩の江戸屋敷
- IV 江戸屋敷の暮らし
- V 一関藩江戸屋敷の事件簿

展示資料数 151点 (会期中展示替えを実施した)

【関連行事】

(1) 講演会

① 「大名・武士の江戸暮らし」

講師：大石 学氏(東京学芸大学名誉教授・時代考証学会会長)

日時：10月6日(日) 13:30~15:00

参加者：107人

② 「発掘調査成果から見た江戸の大名屋敷」

講師：[REDACTED]

日時：10月20日(日) 13:30~15:00

参加者：57人

(2) 一関藩江戸屋敷講座

内容及び講師

①「忠臣蔵」と一関藩一浅野内匠頭御預け [REDACTED]

②「一関藩邸の火災と復興」 当館学芸員

日時：11月17日(日) 13:00~15:30

参加者：94人

(3) 秋のお茶会

日時：10月26日(土)の入館無料日、10:00~13:00 (50人まで)

協力：一関茶道会

参加者：62人

(4) 館長講座「江戸の警備と大名」

講師：菊池勇夫(当館館長)

日時：9月22日(日・祝) 13:30~15:00

参加者：32人

(5) 展示解説会

日時：9月22日(日・祝) 15:10~16:00 22人

10月6日(日) 15:10~16:00 47人

10月20日(日) 15:10~16:00 27人 合計96人
解 説 : 当館学芸員

3 企画展

企画展1「菅原清蔵の民芸コレクションに見る植物意匠（ボタニカルデザイン）」

【目 的】

当館が所蔵する菅原清蔵の民芸コレクションから、植物がデザインされた品々を展覧します。

「民藝」の考え方では、名も無い職人が作ったもの、民衆のための実用品であることなどが大切にされます。

この企画展で展示する品々は、いつ、だれが、どこで作ったものかがはっきりしないものも多いのですが、「民藝」の観点で収集された、のびやかな造形を楽しんでいただけるように紹介します。

【開催期間】 4月27日(土)～6月9日(日)

【開催日数】 38日間

【入館者数】 1,774人(46.7人/日)

【展示概要】

展示構成(自由動線)

- ・めでたい植物がいっぱい～馬衣
- ・シンボルマークとしての植物～しるし・家紋
- ・花、花、花～花巻人形
- ・蓋を開ければ心も踊る～漆の食器
- ・秀衡椀の仲間～浄法寺椀
- ・菅原の民芸コレクションの代名詞～秀衡椀
- ・手描きの線の味わい～漆皿
- ・植物の象徴する幸せにあやかれますように～さまざまな布
- ・「継ぎ」にも趣～藍染木綿裂
- ・「火消し」の揃い～火事頭巾
- ・ほのぼのとしたおかしみ～風景の中の植物(漆盆、行灯皿、土瓶、銚子)
- ・素材を生かした造形～けら・ばんどり 樹皮・竹・藁製品
- ・菓子を食せば植物の生命力まで我が物に～菓子型
- ・菅原清蔵のことば(「みちのくに美を求めて」『河北新報』昭和29年より)
- ・菅原清蔵のスケッチブックなど

・柳宗悦が菅原に贈った自著

展示資料数 303点

【関連行事】

- (1) 演奏会「風薫る音楽会～野に咲く花たちの声が聞こえる～」

演奏：葉井歩 (は～ぼ)

・バイオリン

・電子ピアノ

日時：5月19日(日) 14:00～15:15

参加者：73人

- (2) 館長講座「柳宗悦と東北・岩手―民藝調査の旅―」

講師：菊池勇夫(当館館長)

日時：5月12日(日) 13:30～15:00

参加者：25人

- (3) 「落雁の型」にまつわる話

講師：当館職員

日時：5月19日(日) 13:30～13:50

参加者：39人

- (4) 展示解説会

日時および参加者

5月11日(土) 13:30～14:10 参加者 4人

5月25日(土) 13:30～14:10 参加者 11人

6月8日(土) 13:30～14:10 参加者 10人 合計25人

解説：当館学芸員

企画展2「祈りの中の動物たち」

【目的】

私たちの暮らしの中で動物は、農業や養蚕といった生業に深く関わっており、時には絵馬に描かれ、信仰の対象となることもありました。

絵馬には、大切な労働力であった牛馬や、猫などの各種動物が描かれることがあり、祈願者の動物に対する愛情や、生活の発展や幸福を祈念する思いが感じられます。

また、土人形には動物ごとに様々な意味を持たせたものもあり、犬であれば「安産」「子供の健やかな成長」といった願いが込められています。

動物が表現された絵馬や土人形などを中心に、人々と身近な動物との関わりや、その思いについて紹介します。

【開催期間】 7月6日(土)～8月18日(日)

【開催日数】 38日間

【入館者数】 1,675人 (44.1人/日)

【展示概要】

展示構成

- ① 子供の健康・幸福と動物
- ② 開運招福と動物
- ③ 養蚕成功の祈りと猫
- ④ 牛馬の安全と厩猿
- ⑤ 災難除けと動物
- ⑥ 民俗芸能と動物

展示資料数 104点

【関連行事】

(1) 講演会

- ① 「岩手南部の動物民俗—猫・狼と人の関係—」

講師： ██████████

日時： 7月14日（日） 13：30～15：00

参加者：44人

- ② 「仙台藩の獵師鉄砲—管理と密獵—」

講師： ██████████

日時： 8月3日（土） 13：30～15：00

参加者：20人

(2) 館長講座 「御鷹と御犬—生類憐みの令—」

講師：菊池勇夫(当館館長)

日時： 7月28日（日） 13：30～15：00

参加者：24人

(3) はくぶつかんくいず

期間： 8月1日（木）～8月18日（日）

参加者：71人

(4) 展示解説会

日時： 7月14日（日）	15：10～15：50	27人	
7月27日（土）	13：30～14：10	10人	
7月28日（日）	15：10～15：50	12人	
8月3日（土）	15：10～15：50	8人	
8月10日（土）	13：30～14：10	13人	
8月11日（日・祝）	13：30～14：10	8人	合計78人

企画展3「暮らしのなかの道具」

【目的】

一関周辺で使われたむかしの道具について紹介します。

【開催期間】 1月25日（土）～5月18日（日）

※年度当初計画から変更。当初計画では3月16日（日）で閉会。

【展示構成】

- ・導入（昭和のレコード、ホーロー看板、デパート広告）
- ・昭和の生活道具（炊事、洗濯、ラジオ、テレビ、バリカン、カメラなど）自由導線
- ・ある日の六畳間（ちゃぶ台、茶箆筥、白黒テレビなどを配置し、六畳間を再現）

展示資料数 約161点

【関連行事】

(1) 館長講座

「雪国の春—柳田國男を読む—」

講 師：菊池勇夫（当館館長）

日 時：2月23日（日・祝） 13：30～15：00

「餅の文化史」

講 師：菊池勇夫（当館館長）

日 時：5月11日（日） 13：30～15：00

(2) 展示解説会

日 時：1月25日（土）	13：30～14：10	10人
2月23日（日・祝）	15：10～15：50	
3月8日（土）	13：30～14：10	
4月29日（火・祝）	13：30～14：10	
5月4日（日・祝）	13：30～14：10	
5月5日（月・祝）	13：30～14：10	
5月11日（日）	15：10～15：50	
5月17日（土）	13：30～14：10	
5月18日（日）	13：30～14：10	

II 教育普及（交流連携）活動

1 講座

(1) 館長講座

【目的】

当地域に関わる館長の研究の一端をわかりやすく紹介する。開催中の展覧会に合わせたテーマを設定し、展示への関心を高める講座。

【内容等】

- ① 「柳宗悦と東北・岩手 ー民藝調査の旅ー」
日 時：5月12日（日） 13：30～15：00
参加者：25人
- ② 「御鷹と御犬ー生類憐みの令ー」
日 時：7月28日（日） 13：30～15：00
参加者：24人
- ③ 「江戸の警備と大名」
日 時：9月22日（日・祝） 13：30～15：00
参加者：32人
- ④ 「雪国の春ー柳田國男を読むー」
日 時：2月23日（日・祝） 13：30～15：00

【対象・定員】 各回一般50人

(2) 超初心者のための絵の見方

【目的】

美術に関心はあっても「知識がないから楽しめないような気がする」「美術館や博物館に行きたいが気後れする」という鑑賞初心者には、作品鑑賞の楽しさを伝える。

【内容等】

学芸員と一緒に館蔵作品を見て楽しむ。定員は各回10人程度。

講師：当館学芸員

日時および参加者数	日本画編	5月12日（日）	10：30～11：30	7人
	洋画編	5月26日（日）	10：30～11：30	10人
	版画編	6月9日（日）	10：30～11：30	9人

(3) 古文書初心者講座

【目的】

はじめて古文書を学ぶ人を対象に、江戸時代の古文書を教材としてくずし字や古文書の基礎知識を学ぶ連続講座。

【内容等】

日時：7月28日・8月25日・9月22日（いずれも日曜日）10：30～12：00

講師：菊池勇夫(当館館長)

参加者：延べ57人

(4) 古文書講座－江戸の暮らしを読む

【目的】

当館所蔵の古文書を解説して、大名や武士、町人の江戸での生活を読み取る連続講座。

【内容等】

日時：10月5日・10月19日・11月2日（いずれも土曜日）13：30～15：00

講師：当館学芸員

参加者：延べ38人

(5) 和算講座 入門編

【目的】

和算の基本や歴史についてわかりやすく解説する講座。

【講座内容】

① 「和算の歴史と一関」

日時：7月27日（土） 13：30～15：00

講師：当館学芸員

参加者：15人

② 「江戸時代のお金の話」

日時：8月10日（土） 13：30～15：00

講師：[REDACTED]

参加者：18人

③ 「和算書と算額の読み方－和算用語を中心に－」

日時：8月24日（土） 13：30～15：00

講師：[REDACTED]

参加者：13人

【対象・定員】 一般24人

【参加延人数】 46人

(6) 和算講座 研究編

【目的】

一関出身の和算家千葉胤秀が編集した『算法新書』を通して和算を学ぶ連続講座。

【内容等】

日時：5月25日、6月15日、7月13日、8月10日、9月21日、11月16日

(いずれも土曜日) 10:30~12:00

講師：岩手県和算研究会

【対象・定員】 一般24人

【参加延人数】 61人

(7) 重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会 「幕末の対外情勢と大槻家」

【目的】

国の重要文化財に指定された当館所蔵「大槻家関係資料」並びに学問の家大槻家に関する最新の研究成果を報告する。

6年度は、「幕末の対外情勢と大槻家」をテーマとする。

【内容等】

日時：11月3日(日・文化の日) 13:00~16:00

講演：「幕末の海外情報と大槻磐溪、大槻家」

講師：████████████████████

当館職員による研究報告

① 「大槻玄沢とロシア」 講師：菊池勇夫館長

② 「大槻磐溪の開国論」 講師：当館職員

【対象・定員】 一般100人

【参加者】 52人

2 体験学習

(1) はくぶつかんこどもくらぶ

【目的】

気軽に楽しめる体験やパズル、簡単な工作を通して、歴史や当館の展示に親しむ。

【内容等】

① こどもくらぶスペシャル

日時：5月4日(土)・5月5日(日)、10:00~15:00 随時受付

参加者：83人

② 和風ブックケースをつくろう

日 時：11月4日(月・祝) 13:00~16:00

定 員：5組程度

参加者：2人

(2) 博物館でアートを楽しむ「点描で小粋なコースターを作しましょう」

【目 的】

市民に対し多様な美術体験の機会を提供し博物館に親しんでもらう。市内の美術団体との交流を図り、協力関係を築く。

【内 容 等】

いわい美術振興協会会員を講師として迎え、美術を楽しむ活動を展開。

いわい美術振興協会との共催。

企画展「菅原清蔵の民藝コレクションにみる植物意匠(ボタニカルデザイン)」に関連して、コースターに植物の絵を点描で描いた。コースターへの描画に先立ち、点描技法への理解を促すために、クリアファイルに点描を行った。

日時および参加者：5月18日(土)

午前の部 9:00~12:00 参加者 12人

午後の部 13:00~16:00 参加者 10人 参加者合計 22人

対 象：小学4年生以上

講 師：いわい美術振興協会、当館学芸員

(3) 第23回 和算に挑戦

【目 的】

和算の問題を解くことで和算について理解を深めてもらう。

【内 容 等】

算額や和算書の中から初級、中級、上級の3段階で問題を提示し、解法を募る。

実際に問題を解くことにより、和算のレベルを体感するとともに、難問に挑戦した和算家の心情を追体験してもらう。岩手県和算研究会と共催。

日 時：12月1日(日)から1月20日(月)まで解答を募集。

表彰式：3月9日(日) 13:30~15:00

【対象・定員】 特に限定しない

【参加者】 712人

3 その他の教育普及（交流連携）活動

(1) 古文書整理ボランティア

一関古文書に親しむ会有志に古文書整理作業を行っていただく。（毎週水曜日）

(2) えきえき連携促進事業

博物館を「学びの駅」とし、隣接する「道の駅」巖美溪との相互利用を促進する仕組みを構築し、社会教育と地域産業の活性化の相乗効果をつくり出す。

① 夏のえきえき連携促進事業

道の駅巖美溪と連携し、餅つき大会、はくぶつかんクイズ・パズルに挑戦を実施した。参加者にポストカードを配布。

日 時：8月1日（木） 13:30～15:30

会 場：道の駅巖美溪、一関市博物館

対 象：巖美小学校児童クラブ

参加者：児童生徒26人 引率9人

② 秋のえきえき連携促進事業

道の駅「秋の大収穫感謝祭」会場に、博物館ブースを開設し、「建部清庵が紹介した飢餓を救う植物」を配布。顕彰会が清庵にちなんだ食品の販売や摘み草料理の試食を行った。

日 時：11月3日（日・祝） 9:00～12:00

会 場：道の駅巖美溪イベント広場

協 力：清庵の里

参 考：博物館入館者679人、道の駅巖美溪レジ利用者1,655人

(3) ことばの先人授業、講師派遣等

市教育委員会で実施している「ことばの先人」授業を小学校2校で実施したほか、他機関の希望により講演等を行った。（詳細は「講師派遣等状況」）。

(4) はくぶつかんくいず

希望者に開催中の企画展に関連したクイズを配布し、参加者に記念品を配布。

期 間：8月1日（木）～8月18日（日）

参加者：71人

Ⅲ 資料収集・保存・貸与・管理等

(1) 資料の受け入れ(寄贈・寄託)

① 寄贈(以下寄贈者別に資料名と点数を記載)

油彩画「混迷の為の習作」 1点

絵 14枚

こけし及びこけし絵 397点

棟上札 1点

写真(モデル:白石隆一) 1枚

白石隆一作品 6点

森本仁平作品 2点

白石隆一作品 3点

甲冑 1式、陣羽織 1着、古文書 1式

(2) 資料の修復

① 刀剣等の修復

刀 無銘(茨城17308号、拵あり)の研磨、白鞘作製、ツナギ作製 1件

② 絵画等の修復

日本画下図(佐藤紫煙及び滝和亭) 5点 裏打ち及び仮巻表装

③ 古文書等の修復

日本橋南絵図 1点 の修復

(3) 他館の展示への資料の貸し出し

芦東山記念館 特別展「暦モノガタリ」 13点

平泉世界遺産センター 「骨寺荘園遺跡関連資料」 3点 ※文化財課所管、当館保管
※「柳之御所遺跡出土資料」18点を交換で当館展示借用

(4) 環境調査

第1回 令和6年8月6日～8月27日

第2回 令和7年2月4日～2月21日

(5) 施設燻蒸

令和6年12月6日～12月13日 「一関のあゆみ」展示室、企画展示室を実施

(6) 収蔵品管理システムの運用

IV 調査研究活動

(1) テーマ

調査研究テーマ	個別研究名称
地域の歴史研究	(1) 古代・中世の東北地方に関する研究 (2) 中世から近世にかけての葛西氏の一動向 (3) 石造物の研究 (4) 藩制の研究
舞草刀・奥州刀の研究	舞草刀・奥州刀の基礎的研究
大槻玄沢と蘭学の研究	在村蘭学者の資料研究
大槻文彦と言海の研究	幕末明治期における大槻家
一関と和算の研究	一関地方の和算関係資料の調査
地域の美術工芸の研究	一関ゆかりの作家たち
博物館研究	博物館における展示および教育普及活動等の研究

(2) 一関市博物館研究報告（研究紀要）の発行

第28号の発刊 A4判

(3) 骨寺村荘園遺跡村落調査研究

骨寺村荘園遺跡を核とした伝統的な村落の姿を多角的な視点から調査研究し、成果を蓄積する。

① 骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会

日 時：2月16日(日) 13:30~15:30

報告者：村落調査研究事業調査研究協力者および当館職員

内 容：

- ・ 経塚と本寺： [REDACTED]
- ・ 駒形根神社境内出土の鉄磬： [REDACTED]
- ・ 近世本寺の年貢：菊池勇夫館長
- ・ 近世・近代における本寺の書籍と文化： [REDACTED]

定 員：50人

② 3月末に報告書を発行予定。

(4) 古文書等資料調査

古文書未整理資料の整理、目録のデータベース化。

美術資料の写真撮影、整理、調査カードの作成、データベース化、作家およびその周辺の文献調査等。

(5) 共同研究

国文学研究資料館共同研究(令和6～8年度)

テーマ「一関藩田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究」

V 大槻家資料保存活用事業

令和5年に重要文化財に指定された大槻家関係資料について、修復、研究、公開を計画的に実施するもの。

① 修復

塵積成山 第一冊 丙申集如蘭号

松平齊民扁額 (愛古堂)

以上2点を文化庁の補助金を受けて修復

② 研究報告会の開催

日 時：11月3日(日・文化の日) 13:00~16:00

講 演：「幕末の海外情報と大槻磐溪、大槻家」

講 師：██████████

当館職員による研究報告

① 「大槻玄沢とロシア」 講師：菊池勇夫館長

② 「大槻磐溪の開国論」 講師：当館職員

【対象・定員】 一般100人

【参加者】 52人

③ その他

当館編により『学問の家 大槻家の人々』を吉川弘文館より刊行(令和6年11月1日)

VI 広報

- ・ 年間行事案内の配布(年度当初)
- ・ 市広報「博物館だより」コーナーによる情報の発信
- ・ 一関市博物館ホームページの随時更新による最新情報の提供
- ・ 一関市ホームページ「イベントカレンダー」による情報の提供
- ・ 新聞、エフエムあすも、一関テレビへの情報提供
- ・ 市公式フェイスブックによる情報発信
- ・ 各種情報誌への掲載

VII その他

- ・ スマートフォン等によるアプリケーションを利用した展示ガイド

VII 講師派遣等状況

(令和7年1月31日現在)

(1) 来館対応

① 展示解説等 (学校関係)

No.	月	日	学 校 名	人数
1	7	31	不来方高校 2年生	5
2	8	28	山目小学校 6年生	82
3	10	30	中里小学校 6年生	39
4	11	14	舞川小学校 6年生	13
5	11	15	南小学校 3年生	67
6	1	30	舞川小学校 3年生	12
合計				218

② 展示解説等 (各種団体)

No.	月	日	団体名等	人数
1	4	3	一関市新採用職員研修	52
2	5	1	一関市教育委員会初任者研修会	26
3	5	16	巖美人生大学 (巖美市民センター)	19
4	7	17	萩荘ふるさと大学 (萩荘市民センター)	29
5	7	18	新風景・浄土と童話の世界	16
6	7	19	東北 MUCC 生コン技術会青森支部	15
7	7	19	萩荘ほのぼのサロン	9
8	7	25	巖美人生大学 (巖美市民センター)	16
9	7	26	歴史紀行岩手県絶景めぐり	13
10	7	26	学びの土曜塾 (涌津市民センター)	21
11	8	9	巖美3区元気いきいき教室	11
12	9	25	萩荘ふるさと大学 (萩荘市民センター)	28
13	10	17	巖美人生大学 (巖美市民センター)	13
14	11	6	老松市民センター	26

No.	月	日	事業名	人数
15	11	14	川崎・東山地域統計調査員協議会	19
16	11	14	遠野市統計調査員協議会	20
17	11	20	栗原歴史隊	5
18	11	22	田尻民生委員児童委員協議会	24
合計				362

(2) 講師派遣

① ことばの先人講師（出前授業）

No.	月	日	対象	内容	人数
1	11	21	南小学校 3年生	大槻玄沢・大槻文彦	67
2	11	28	一関小学校 6年生	大槻玄沢・大槻文彦	99
合計					166

② 講師派遣（各種団体）

No.	月	日	事業名	人数
1	4	24	一関地区保護司会東分区自主研修会（芦東山の和歌の一端）	36
2	5	16	川崎町づくり協議会川崎学チーム（浪分神社の算額について）	7
3	6	4	舞川7区・8区いきいきサロン（和算家千葉胤秀の生涯と舞川地区の和算について）	15
4	10	19	東北地区和算研究交流大会（和算と一関）	25
5	1	17	岩手県獣医師会一関支会（大槻玄沢と蘭学—動物へのまなざし—）	21
合計				104

(3) 参考：学校等自由見学

No.	月	日	事業名等	人数
1	9	20	室根小学校 3年生	25
2	10	2	磐井中学校 1年生	57

No.	月	日	事業名等	人数
3	11	21	花泉小学校 3年生	75
4	1	28	赤荻小学校 3年生	49
合計				206

(4) 参考：講座・体験学習・その他の交流連携事業の合計

講座	体験学習	その他	合計
361	817	993	2,171

令和 7 年度
事業計画

目 次

I	特別展・企画展等	1
II	教育普及（交流連携）活動	2
III	資料収集・保存・貸与	4
IV	調査研究	5
V	大槻家資料保存活用事業	6
VI	広報	6
VII	その他	6

令和7年度事業計画（記載内容はいずれも予定）

I 特別展・企画展等

1 特別展 「千葉胤秀生誕250年記念 算額の世界」

(1) 趣 旨

算額は、日本古来の数学である和算を学んだ人々が、数学の問題を書き人々の集まる寺社に奉納した絵馬の一種です。一関市内には、市町村単位では最多の67点の算額が現存しており、一関藩の算術師範役・千葉胤秀やその門人らにより、一関地方は和算が大変盛んであったことを端的に示しています。算額は、我が国で和算が発展していく大きな原動力の一つとなりました。

本展では、現存する各地の算額を紹介するとともに、数学模型など和算に関連した資料を交えて、江戸時代の数学の世界を俯瞰します。

(2) 会 期

令和7年9月13日（土）～11月16日（日）

(3) 展示構成案

- I 和算と算額
- II 各地の算額
- III 算額に書かれた問題
- IV 算術道具

(4) 関連行事

- ・講演会
- ・演奏会
- ・展示解説会

2 企画展等（各展覧会とも仮題、会期は予定）

- (1) 「暮らしのなかの道具」 1月25日（土）～5月18日（日）※
- (2) 「〇こけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」 6月下旬～8月中旬
- (3) 「江戸時代の村の教養―本寺の肝入の書籍から―」 1月下旬～3月下旬

いずれも、講演会や展示解説会などの関連行事を予定。

※令和6年の企画展の会期延長

3 長沼守敬に関する展示

明治時代から大正時代にかけて活躍した一関出身の彫刻家 長沼守敬を顕彰するための展示。エントランスホールにパネルを展示（通年）。

II 教育普及（交流連携）活動

1 講座

(1) 館長講座

①「餅の文化史」5月11日（日）

日時：年間3回程度 土日祝日 午後1時30分～3時

定員：50人

ほか2回程度 合計3回程度

(2) 古文書初心者講座（連続講座）

当館所蔵の古文書を題材として、江戸時代の古文書についての初歩を学ぶ。

日時：年間4回程度

定員：24人

(3) 古文書講座（連続講座）

当館所蔵の古文書を題材として、江戸時代の古文書の解説の仕方や、そこからわかる歴史について学び、身近な史料や歴史について、関心を高める。

日時：年間4回程度

定員：24人

(4) 和算講座 入門編

江戸時代に発達した日本独自の数学「和算」について、その歴史や特徴、初歩的な知識を解説。岩手県和算研究会と共催。

日時：年間3回程度

定員：各回24人

講師：岩手県和算研究会会員

(5) 和算講座 研究編（連続講座）

一関の和算家千葉胤秀が編集した『算法新書』の解説を通して和算を学ぶ。平成29年度から継続。岩手県和算研究会と共催。

日時：4月～12月 各月1回

定員：24人

講師：岩手県和算研究会会員

(6) 超初心者のための絵の見方

美術に関心はあっても「知識がないから楽しめないような気がする」「美術館や博物館に行きたいが気後れする」という鑑賞初心者には、作品鑑賞の楽しさを伝える。

学芸員と一緒に館蔵作品を見て楽しむ。

日時：2回程度

定員：10人程度

(7) 講座「紙の文化史 - 入門編 -」

和紙や身のまわりにある用紙について、紙の科学的な特徴や歴史についての基礎講座。

日時：年間2回程度

定員：30人

2 体験学習

(1) はくぶつかんこどもくらぶ

当館の展示テーマにちなむ体験学習。

内容を変えて3回程度

日時：小学校の休業日

対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）

講師：当館学芸員ほか

(2) 博物館でアートを楽しむ

美術を楽しむ活動を行う。いわい美術振興協会との共催。

日時：土曜または日曜日

対象：小学3年生以上

講師：いわい美術振興協会、当館学芸員

(3) 第24回 和算に挑戦

算額や和算書の中から初級、中級、上級の3段階で問題を提示し、解法を募る。

実際に問題を解くことにより、和算のレベルを体感するとともに、難問に挑戦した和算家の心情を追体験してもらう。

令和7年度は24回目となる。当館特有の事業として全国的にも注目されている。岩手県和算研究会と共催。

期間：12月1日から1月20日まで解答募集

表彰式を3月上旬に開催

対象：特に限定しない

3 その他の教育普及（交流連携）活動

(1) 古文書整理ボランティア

(2) ことばの先人授業（学校教育課による事業において学芸員が講師を務める）

Ⅲ 資料収集・保存・貸与

1 資料の受け入れ(寄贈・寄託)

2 資料の修復

- ・刀剣等の修復
- ・絵画等の修復
- ・古文書等の修復

3 他館の展示への資料の貸出

- ・巡回展「世界遺産 縄文」 令和7年6月～令和8年3月

会 場：東北歴史博物館、京都文化博物館、群馬県立歴史博物館

貸出資料：動物型土製品（コノハズク） 1点

骨角製品（ヘアピン） 1点 ※文化財課所管、当館保管

動物型骨角製品（カエル） 1点 ※文化財課所管、当館保管

4 環境調査

年度中2回実施予定。

5 施設燻蒸

12月頃に実施予定。

IV 調査研究

1 テーマ

調査研究テーマ	個別研究名称
地域の歴史研究	一関市を中心とする地域の歴史に関する研究
舞草刀・奥州刀の研究	舞草刀・奥州刀の基礎的研究
大槻玄沢と蘭学の研究	在村蘭学者の資料研究
大槻文彦と言海の研究	幕末明治期における大槻家
一関と和算の研究	一関地方の和算関係資料の調査
地域の美術工芸の研究	一関ゆかりの作家たち
博物館研究	博物館における展示及び教育普及活動等の研究

2 一関市博物館研究報告（研究紀要）の発行

第29号の発刊 A4判

3 骨寺村荘園遺跡村落調査研究

骨寺村荘園遺跡を核とした伝統的な村落の姿を多角的な視点から調査研究し、成果を蓄積する。

①(仮称)骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会

日時：12～3月の間、1回

講師：村落調査研究事業研究協力者等

定員：100人

4 古文書等資料調査

古文書未整理資料の整理、目録のデータベース化。

美術資料の写真撮影、整理、調査カードの作成、データベース化、作家及びその周辺の文献調査等。

5 共同研究

国文学研究資料館共同研究(令和6～8年度)

テーマ「一関藩田村家を中心とした近世前期公武文化圏に関する地域連携的研究」

V 大槻家資料保存活用事業

令和5年に重要文化財の指定を受けた大槻家関係資料について、修復、研究、公開を計画的に実施するもの。

令和7年度は、資料の修復と研究報告会の開催を計画

VI 広報

- ・年間行事予定表の配布（年度当初）
- ・市広報「博物館だより」コーナーによる情報の発信
- ・一関市博物館ホームページの随時更新による最新情報の提供
- ・一関市ホームページ「イベントカレンダー」による情報の提供
- ・新聞、FMあすも、一関テレビ等の活用
- ・市公式フェイスブックによる情報発信
- ・各種情報誌への掲載

VII その他

- ・スマートフォン等によるアプリケーションを利用した展示ガイド
- ・設備改修等に伴う臨時休館（11月26日から12月13日）
- ・地元団体等との協力活動